



## 著者プロフィール

松永浮堂（まつなが・ふどう）本名 孝夫

昭和31年 3月24日 埼玉県加須市に生まれる  
 昭和52年 「浮野」創刊と同時に入会  
 昭和54年 埼玉大学教育学部卒業  
 昭和55年 浮野賞（新人賞）受賞  
 昭和60年 第一句集『平均台』刊  
 昭和62年 谷川賞（同人賞）受賞、第三回浮野大賞受賞  
 平成元年 俳人協会会員  
 平成2年 第三回静思賞受賞  
 平成5年 第二句集『肩車』刊  
 平成14年 第八回浮野大賞受賞  
 平成15年 埼玉文芸賞準賞受賞  
 「浮野」同人、俳人協会会員

〈句集『げんげ』より転載〉〈2004年4月21日時点〉

## 『げんげ』（自選十五句）

松永 浮堂

げんげ田のさざなみに身を投じけり  
 大日海は劫初の色に照る  
 炎より弾ける火の粉初不動  
 落椿音なきことを未来とす  
 千年の墓百年の花吹雪  
 花菖蒲だらりの帯を結ふごとく  
 雪溪へ一身寄せて一歩かな  
 ぼうたんの崩れを誰も止められず  
 石ころにこつと当りぬ藻刈鎌  
 棒持つて遊びにゆく子秋桜  
 くちびるはすでに思春期さくらんぼ  
 飛び込んで紺の深まる水着かな  
 曼珠沙華古墳に発し野に移る  
 山国の青き五月に目覚めけり  
 荒星へ投網を打つてみたくなる